

〔共同研究：障害学生の学内活動自立のための支援システムに関する基礎研究〕

桃山学院大学における 聴覚障害学生への情報保障のシステム化(Ⅱ)

——ノートテイク活動に関する調査結果——

冷水 啓 子

Ⅰ 問 題

本稿は、桃山学院大学総合研究所共同研究プロジェクト（04共169）「障害学生の学内活動自立のための支援システムに関する基礎研究」の2回目の研究報告である。

本プロジェクトは、2004年度から2006年度にかけて、聴覚障害学生に対する授業情報保障に焦点を合わせて実践的研究活動を行った。授業情報保障のためのおもな手段として活用したのが「ノートテイク」である。ノートテイクとは、通訳者（ノートを取る人という意味で「ノートテイカー」と呼ばれている）が、話されている内容を利用者の隣で用紙に筆記したものを見せながら伝える方法である。大学の講義を聴覚障害学生（利用学生）のためにノートテイクすることは、とくに「大学ノートテイク」と呼ばれている。研究開始当初、本学にはノートテイクに関する専門家がいなかったため、堺市要約筆記サークル「堺ひまわり」にノートテイカーの派遣およびノートテイク講習会の実施などの協力を依頼した。その結果、本学の科目を履修する聴覚障害学生（本学学生および単位互換制度を利用した他大学学生）を対象としたノートテイク・サービスの実施および学生ノートテイカーの養成が可能となった¹⁾。

2005年度秋学期からは、学部事務室職員1名が本学聴覚障害学生に対するノートテイク・サービスとノートテイカー養成業務の担当者（コーディネーター）となり、大学としての支援活動が開始された。2006年度にはさらに2名の難聴の新入生を迎え、それ以降は毎年数名の聴覚障害学生が情報保障サービスを受けるようになった。そして、2007年度から学生課が支援業務を管轄することになり現在に至っている。

前回の研究報告²⁾では、聴覚障害のある受講学生へのノートテイク・サービスを利用した

1) 「堺ひまわり」の皆様には、2004年度から現在に至るまで、ノートテイカーやノートテイク講習会の講師として多大なご支援をいただいております。ここに記して御礼申し上げます。

2) 冷水啓子・竹中暉雄・瀬谷ゆり子（2008）「桃山学院大学における聴覚障害学生への情報保障のシステム化——ノートテイクによる支援の検討——」桃山学院大学総合研究所紀要、第33巻第3号、pp.185-205.

キーワード：大学ノートテイク 利用学生 ノートテイカー 授業情報保障

本プロジェクト・メンバーである3名の教員が、授業担当者の立場から、その利用状況および成果と課題などについて報告を行った。そこで、今回は、ノートテイクの利用学生やノートテイカーの立場に焦点化して検討を行う。2005年度から2006年度にかけてノートテイクを利用した2名の本学学生（KとM）および彼らをサポートしたノートテイカーたち（本学学生ノートテイカーと「堺ひまわり」メンバー）を対象にして、彼らへのアンケート調査の結果や提出されたレポート内容などを紹介し講評することによって、本学におけるノートテイ

図表1 ノートテイク利用記録・評価用紙

ノートテイク利用記録・評価用紙					
	① そう思う	② だいたい そう思う	③ どちら とも 言えない	④ あまり そう 思わない	⑤ まったく そう思 わない
1 読みやすい文字で書かれていましたか	①	②	③	④	⑤
2 文字の大きさは自分にとって適切でしたか	①	②	③	④	⑤
3 文字を書く速さは自分にとって適切でしたか	①	②	③	④	⑤
4 わかりやすい文章で書かれていましたか	①	②	③	④	⑤
5 箇条書き、記号など理解しやすい工夫がなされてきましたか	①	②	③	④	⑤
6 ノートの記載内容や分量は自分にとって適切でしたか	①	②	③	④	⑤
7 ノートは見やすい位置に置かれていましたか	①	②	③	④	⑤
8 ノートテイカーの交代方法は自分にとって適切でしたか	①	②	③	④	⑤
9 ノートテイカーは協力的でしたか	①	②	③	④	⑤
10 講義の内容がよく理解できましたか	①	②	③	④	⑤
	① そう思う	② だいたい そう思う	③ どちら とも 言えない	④ あまり そう 思わない	⑤ まったく そう思 わない

* 「④あまりそう思わない」「⑤まったくそう思わない」を選択した場合は、下の欄に必ず理由を記入してください。

意見・感想

日 時： _____ 年 月 日 () / 時 限
 科 目 名： _____
 利 用 者： _____
 ノートテイカー： _____

図表2 学生ノートテイク活動記録用紙

学生ノートテイク活動記録		04共169
ノートテイク者 氏名		利用者 氏名
学籍番号		
授業科目名		____月____日____曜日____時限
活動内容について：		
自己評価と反省：		

クの利用・活動状況およびその成果・課題について報告を行う。

Ⅱ ノートテイク活動に関する調査概要

本プロジェクトによるノートテイク活動期間中は、「アンケート調査」や「ノートテイク反省会」の実施によって資料収集が行われた。ノートテイクの利用学生と学生ノートテイク者には、原則として毎回のノートテイク活動後にアンケート調査が行われた。利用学生には「ノートテイク利用記録・評価用紙」が、また学生ノートテイク者には「学生ノートテイク活動記録」用紙が渡され、それぞれ回答を記入して提出することが求められた。使用した調査用紙は、図表1および図表2で示す通りである。これらのアンケート調査は2005年度に集中的に行われた。また、2004年度と2005年度の学期末には「ノートテイク反省会」が実施され、ノートテイクの利用学生、ノートテイク・サークル「ピーチフラグス」を中心とした学生ノートテイク者、「堺ひまわり」メンバーという3者の立場から、1年間のノー

トテイク活動に関する反省や今後の課題についての報告がなされた。はじめの2004年度は3者の顔合わせや親睦を深めるための懇談会といった集まりであったが、2回目の2005年度は、学生司会者のもとで活発な意見交換が行われた。その際、利用学生、学生ノートテイカーの有志やノートテイク・サークルのメンバー、および「堺ひまわり」メンバーから、活動内容をまとめたレポートが提出された。また2004年度と2005年度に年2回行われた「ノートテイク講習会」では、参加学生全員にB5サイズのコメントカードが配られ、それに小レポートを書いて講習会終了後に提出することが求められた。

ノートテイク業務が学部事務室へ移管された後の2006年度は、利用学生の一人であるKのノートテイクを担当した3名の「堺ひまわり」メンバーに対してアンケート調査が行われた。そのアンケートの質問内容は図表3で示す通りである。さらに、2006年度の年度末に学部事務室主催で実施された「ノートテイク反省会」においても、ノートテイクの利用学生、学生ノートテイカー、「堺ひまわり」メンバーの3者の立場から、それぞれの活動をまとめたレポートが提出されたので、それらも資料として参照した。

そこで、本稿では、これらの3種類のアンケートの回答結果、2回の反省会でのレポート内容、計4回の講習会での小レポート内容などをまとめ、ノートテイクの利用・活動状況およびその成果・課題について検討を行うこととする。その際、利用学生、学生ノートテイカー、「堺ひまわり」の3群に分けて総括を行う。具体的には、次の第Ⅲ章で、1. 利用学生の活動状況、2. 学生ノートテイカーの活動状況、3. 「堺ひまわり」メンバーによるノートテイク活動状況の順に、結果の紹介と考察を行いたい。なお、本稿で報告対象となった利用学生（K, M）と学生ノートテイカーは、すでに本学を卒業した者たちである。

図表3 アンケートの質問内容

<p>「堺ひまわり」メンバーへの 「2006年度ノートテイクに関するアンケート調査」の質問内容</p> <p>5つの科目（教育学概論，専門演習，視聴覚教育，教育実習Ⅰ，教職演習）に対して、次の6項目に関して自由記述により回答を求めた。</p> <p>①当該授業でのノートテイクの様子や特徴についてどのような印象をお持ちになりましたか？ 具体的にお書きください。</p> <p>②当該授業でのノートテイクで、やりやすいと感じたのはどのような点ですか？</p> <p>③当該授業でのノートテイクで、やりにくいと感じたのはどのような点ですか？</p> <p>④当該授業で、とくに困ったことや戸惑ったことはありませんでしたか？ もしそのようなことがあったなら、具体的にお書きください。 また、その時、どのように対処されましたか？</p> <p>⑤当該授業のノートテイクのためにとくに工夫した点があればお書きください。</p> <p>⑥その他、何かお気づきの点があればご自由にお書きください。</p>

Ⅲ ノートテイク活動に関する調査結果と考察

1. 利用学生の活動状況について

1) ノートテイク利用学生Kによるノートテイク利用記録と評価

Kは、2005年度に受講していた科目のうち3つ（専門演習，日本史，教育学概論）について，おもに「堺ひまわり」メンバーによるサポートを受けていた。彼が提出したノートテイク利用記録・評価アンケート用紙には，10個ある質問項目のそれぞれの該当箇所にも丸がつけられているだけでなく，意見感想欄にも簡単なコメントが記入されていた。そこで，それらの回答内容を検討してみよう。

まず質問項目への回答を見ると，ほとんどの項目で高い評価がなされていた（「①そう思う」または「②だいたいそう思う」が選択されていた）。利用学生によく見られるノートテイク者に対する遠慮からか，少し甘い見積もりになっている部分があるかもしれない。「堺ひまわり」メンバーはノートテイクの熟練者たちなので，全体として評価が高くなったとも考えられる。その反面，毎回の回答状況にほとんど変化が見られなかったことから，授業回数が増えるにつれて彼がノートテイクの利用の仕方に慣れていく様子を見て取ることはできなかった。しかし，意見・感想欄に記入されていた内容には，科目やノートテイクの仕方による分かりやすさの違いに関する記述があったので，次にそれらを抜粋して紹介しよう。ただし，以下の記述内容には，原文のままのものと筆者が部分的に書き直したものが含まれている。後者の場合，趣旨を変更することなく不正確または冗長な部分を修正または要約して書き表した。また，「です・ます」調で書かれていたものは「だ・である」調に変えて文体を統一した。なお，記述の中で言及されていた5名のノートテイク者の名前は H1～H5 として文末に記号で示した（日本史の H2 に関する箇所では，1回の授業での記録内容の冒頭に「・」を付し，授業がかわるごとに「/」を挿入して文章を区切った）。

(i) 法学部の専門演習（3年次）

- ・記号を使って書く工夫がすばらしかった。ゼミ生が座っている席に記号をつけ，発言内容をノートテイクする際は名前ではなく記号で簡潔に書いてくれた。そのため，ノートする効率や分かりやすさがアップした。〈H1〉
- ・2人の連携プレーがよかった。相方がノートテイクをしている時も，休まずプリントやレジュメに口頭で話された内容をメモしてくれたので，より理解することができた。〈H1・H2〉
- ・急いで書くため字が流し字となり，読みにくい。〈H4〉

(ii) 日本史

- ・日本史の専門家かと錯覚するほどうまくノートテイクされていた。〈H1〉
- ・どんどんうまくなっていて，ビックリした。とくにまとめ方が本当によかった。/・今日はビデオがあったため，ノートテイクしづらく，相方と5分ごとに交代するというア

アイデアは効率がよかったと思う。／・もはやベテランと呼んでも差し支えないくらいまかった。／・後から修正の記入が多く、まとめきれていないのかなと感じてしまった。まとめる能力を磨いてほしいと思った。それ以外はよかった。〈H2〉

- ・（はじめてこの科目のノートテイクを担当したため）ノートテイクに慣れていないせいか、字が雑になりがちで少々読みづらかったが、仕方ないと思う。経験を重ねれば、上達することができるので頑張してほしい。〈H5〉

(iii) 教育学概論

- ・たくさん書きこまれていて理解しやすかった。文字を書く速さが上達してきたなあと感じた。〈H1〉
- ・大変よかったと思う。おかげで十二分に理解することができた。〈H2〉
- ・今日の講義は難しかったせいか、文章のまとめ方が単調だったり説明不足も少しあったりしたが、仕方なかったと思う。きつい言い方だが、他のノートテイク者と比べると一段劣ると思う。書き込みの多さもまとめ方も物足りなく感じた。もっと頑張してほしいと思う。〈H4〉

熟練したノートテイク者であっても、日常会話と異なる大学の授業となると、科目内容や授業方法によってノートテイクに得手不得手が生じる。そこで、その科目にある程度知識や関心をもっているノートテイク者になるべく連続して担当することが望まれる。実際にノートテイクが巧みだと、授業がよく分かるため、利用学生の喜びや満足感が高まる。その様子が文面からも読み取れる。しかし、たとえ知識や関心のある科目であっても、その日の体調や話の内容によってノートテイクの出来栄が異なってくるであろう。その日のノートテイクに分かりにくいと感じる点があった場合、次回にはそれらが少しでも改善されることを願って、利用学生がノートテイク者に対し忌憚のない意見や提案を述べ、かつ、ノートテイク者もその声を真摯に受け止めて一緒に改善策を考えることができるような関係が構築されれば理想的である。

次に、ノートテイク反省会で利用学生が提出したレポート内容を検討してみよう。

2) ノートテイク反省会に提出されたレポートの内容（概要）と考察

(i) Kの場合

2006年度秋学期の反省会では、（おもに「堺ひまわり」メンバーによる）ノートテイクで評価される点として、①授業の専門的内容をより理解してノートテイクできていたこと、②相方がノートテイクしている間も積極的にプリントに説明を書き込んでくれていたこと、③ノートテイクする時の効率が向上してきたこと、④何かトラブルがあった時も機敏に対応できていたこと、⑤2人いるノートテイク者同士の連携がよかったこと、などが挙げられていた。他方、問題点としては、⑥ノートテイクする時場所をとられてちょっと座りづらかったこと、⑦時々二人同時にノートテイクしていたこと、⑧専門用語が聞き取れなくて「？」と書いていたこと、などが挙げられていた。

⑥は周辺的な問題であり重要視されない点かもしれない。しかし、Kは体格がよいため、毎回両隣りにノートテイクが近接して座っていると窮屈だったのであろう。ある程度の空間的余裕がないと、ノートテイクが次々書き綴っていく文字を見ながら自分のノートを取る作業は円滑には進まないと思う。利用学生にとってはこれも切実な問題である。⑦も注意する必要があるだろう。2人が同時に同じような書き込みを始めると、どちらのノートを見ればよいか分からなくなるから、今どちらのノートテイクがメインとなっているかを明かにさせておく必要があるだろう。

年間を通しての感想として、Kは次の2点を挙げた。第1に、最初は専門用語が多くて理解しにくかったノートテイクたちも、最後にはスラスラとノートテイクができるようになったこと。このことから、ノートテイク担当者は固定したほうがよいと思われる。また、ノートテイクによってノートテイクしやすい(あるいはしにくい)授業が異なるので、利用学生はそれぞれの授業でノートテイクの適任者を見極める必要がある。第2に、ノートテイクたちとは授業の休憩時間に積極的にコミュニケーションをとるなどして、相互理解や交流を深めることが必要不可欠であること。2人のノートテイクと利用学生とで3人のチームを組み、結束を固めることが大切だと思うと述べている。

そして、レポートの最後は、慣れと経験さえ積めば誰でもノートテイクが上達すると思うので、日々の努力を欠かさず、ノートテイクを楽しむつもりで頑張ってもらいたいというノートテイクに対する期待と感謝の言葉で締めくくられていた。

(ii) Mの場合

2005年度の反省会では、1年間学生によるノートテイクを受けての感想が報告された。はじめに、学生ノートテイクはみな必死になってノートテイクをしてきていることへの感謝の言葉があった。彼らはだんだん慣れてきて、自分らしくノートテイクができるようになってきているとのことであった。次に、改善してほしい点は、もっと読みやすい字で分かりやすく書くことである。漢字は字数が多く、なかなか思い出せなくて筆が進まなくなってしまうから、無理せずひらがなやカナで書いてほしい(その時は該当箇所を下線をひいて示す)とのことであった。ひらがなやカナのほうが分かりやすい場合もあるそうである。他方、自己の反省点は、遅刻が多い、授集中に寝る、欠席や遅刻の連絡が遅い点であるとして、次年度には改善したいとのことであった。

Mは利用学生としての心構えが足りなかったことを率直に認めている。学生ノートテイクからも、それに関してクレームが出されていた。たとえば、2006年度の反省会では、学生ノートテイクの1人(S6)から、「ノートテイクの当日に、利用学生が連絡なく欠席したことが何度もあり、今後の対応をきちんと決めておくべきだと考えた。ノートテイクはきちんと教室で待機しているにもかかわらず、利用学生が急遽欠席したことによってノートテイクが中止となり、代金が支払われないことに疑問を感じた」という指摘があった。

ここで、話されている内容がほとんど分からない授業が90分間続く間、教室のなかでじっ

と座っていなければならないという状況を想像してみよう。はじめは我慢して座っているが、しだいに混沌とした世界に1人取り残されているという疎外感が募り、一刻も早くその場を抜け出し苦痛から逃れたいと思うようになる。しかし退室はできない。そのうちに注意力が散漫になり眠くなってくるだろう。それに対して、ノートテイクによる支援がある時は、教室内の聴覚情報が刻々と文字化されていく。そのノートテイク記録を見つつ板書やプリントやスライド情報と照らし合わせながら自分のノートをとらなければならないから、とても忙しくて寝ている暇などないはずである。

それでもMが寝てしまうというのはなぜなのか。実際に講義を聞きながらノートを取るよりも、ノートテイク記録を写していくほうが情報（刺激）量の少ない単調な作業となるため、つい気が緩んで眠気を催してしまうことが考えられる。眠ったらノートテイクに起してもらえる³⁾だろうという期待や、後でノートテイク記録を見なおしてノートを補完すればよいといった甘えもあるかもしれない。無断欠席、不意の遅刻や早退、授業中の睡眠などは、聞こえる学生にもよく見られる行為である。しかし、利用学生が同様な行動をとると波紋が大きくなる。ノートテイクが予定通りに活動できなかった拘束時間分はどのように埋め合わせすべきか。それは経費上の問題のみならず、ノートテイクとの信頼関係を揺るがすことにもなりかねないだろう。利用学生には制約が多く、他の一般学生のように自由気ままに振舞えない点が辛いところではあろうが、ノートテイク利用上の約束事を理解したうえで、責任ある行動をとるべきではなかろうか。

このような問題は2006年度でも解消されず、当該年度の反省会においても、やはり欠席などの連絡が遅すぎて学生ノートテイクたちに迷惑をかけてしまったことが反省点として挙げられていた。それでも、秋学期にメーリングリストが作成・活用されるようになってから、ノートテイク活動全体の状況が少しずつ改善されてきたらしい。メーリングリストを通じてノートテイク・サークル全体で活動情報が共有されるようになり、利用学生の直前の欠席や遅刻にも対応ができるようになったそうである。学生ノートテイクの欠席や遅刻についても急遽交代要員などを探して派遣することが可能となり、学生ノートテイク同士の連絡が円滑にできるようになったという。最後に、自身のための来年度（2007年度）の学生ノートテイクが6人に減ってしまうため、今後定期的に講習会を開催してもらい、ノートテイク募集の宣伝を強化していきたいという希望が述べられていた。こうした彼女の存在が学生ノートテイクたちのボランティア精神を喚起し、これからも協力していこうという意欲をかきたてているのであろう。

3) 原則として、ノートテイク中に利用学生が寝てしまった時は、起さずにノートテイクを停止し、利用学生が目覚ますまで待機することが決められている。しかし、実際はノートテイクの判断で利用者を起こし、ノートテイクを続けることが多いようである。

2. 学生ノートテイカーの活動状況について

1) ノートテイク講習会に参加した時の小レポートについて

本プロジェクトが主催したノートテイク講習会は、2004年度2回（参加学生はのべ21名）、2005年度2回（同23名）の計4回である。それらの講習会に参加した学生（学生ノートテイカー候補者）たちの意見・感想について、代表的なものを挙げて検討してみよう。ただし、以下の「・」から始まる記述内容には、原文のままのものと筆者が部分的に書き直したものが含まれる。後者は、趣旨を変更することなく不正確または冗長な部分を修正または要約して書き表したものである。また、「です・ます」調で書かれていたものは「だ・である」調に変えて文体を統一した。なお、これから紹介する全部で14名の学生ノートテイカー（またはその候補者）の名前はS1～S14として記号で表した。

(i) 2004年度

2004年度の講習会に参加した学生の動機は個人によって異なるようであるが、「堺ひまわり」メンバーの指導によりはじめてノートテイクを経験してみて、①速やかにかつ正確に書いて伝えることの難しさを実感するとともに、②利用学生に分かりやすいノートテイクを行うために重要な要因についての認識が高まったようである。さらに、③ノートテイク技能を習得すれば、利用学生のためのみならず自身の授業理解能力まで高めることができるのではないかという期待をいただく者もいた。

- ・自分は聞こえるから、主観が入ってしまうかもしれないと感じた。聞こえているから分かる書き方をしてはいけないことが分かった。メモやノート取りではないのだから、講義中の情報をリアルタイムで全てを伝えられるよう心がけなければならないと分かった。また、ノートテイクの速さについていかれず、一度書けなくなると頭で整理がつかなくなり焦ってしまった。やはり経験・慣れが必要だ。＜S5＞
- ・ノートテイクはとても難しいということを実感した。実際ノートテイクをしてみるまでは、書く速さに自信があったので大丈夫だと思っていたが、そう簡単ではないことが分かった。自分が受けている授業でも先生の話についていけず、友人のノートを借りて授業内容を理解することがある。だから、ノートテイクをすることによって、もしかすると自分の授業理解能力も上がるのではないかと期待をもった。先生側の協力でノートテイカーの負担はかなり減るように感じた。＜S8＞

以上のように、ある程度練習してノートテイクのやり方に慣れていかなければ上手にノートテイクはできないのであるが、次のように、はたして自分にもできるのだろうかと不安な気持ちを吐露する学生（S4）もいた。ただし、この学生は講習会の後で、おもにMのノートテイクを担当することになった。

- ・ノートテイクの仕方をメモするだけでもついていくことが難しかったので、利用学生に分かるように、わかりやすく、正しく、速く書くことはもっと難しいだろうと思った。授業についていきながらノートテイクできるかがとても不安だ。＜S4＞

(ii) 2005年度

参加者のなかに、前回の講習会をすでに受けたことのある者も含まれていた。前回の経験があるためノートテイクがやりやすくなったと感じた者もいるが、新たな課題が見つかり、さらに練習を積み重ねていく必要性を強調する者が多かった。

- ・今まで自信がなかったが、今日ほめていただいて自信がついた。行間や文字の大きさなどに注意してノートテイクを進めていきたいと改めて感じた。〈S2〉
- ・2回目だったが、ゆっくり目の時はまだまだが、ふつうの速さになるとどうしても字が乱雑になったり、大幅に抜けてしまったりして、うまくいかなかった。初めて模擬授業の形でやってみて、難しさを実感した。〈S7〉
- ・2回目よりはあせらずノートテイクできたと思う。でも、先生の話を書き取るだけでなく、必要なものをまとめて話をつなげていくというのがこれからの課題だと思った。「習うより慣れよ」を実感できたので、これからも頑張りたい。〈S7〉
- ・ノートテイク講習会は2回目の参加。以前と内容が同じだったのでやりやすかったが、それでも聞き取れないことが多々あったので、まだまだ練習不足かと思った。〈S9〉
- ・前回に引き続き2回目、去年から数えると4回目の参加になるが、会話のスピードでノートテイクをするのは難しい。いつまでたっても慣れない。もっと実践を踏まえて本格的にやってみたい。〈S11〉

上記以外にも、講習会を受けた結果、難しすぎたのでもう「参加したくない」と正直な感想を述べた者がいた。その一方で、「すごく興味がでた。もっと勉強してみたいと思った」ものの、都合がつかず、その後ノートテイクとして活動ができなかった者もいたようである。

2) 2005年度の学生ノートテイクによる活動記録およびノートテイク利用学生によるノートテイク利用記録と評価について

次に、2005年度の1年間または半年間（秋学期）活動を行った14名の学生ノートテイク（S1～S14）による活動記録のなかから、おもなものを抜粋して紹介する。学生ノートテイクたちがそれぞれ試行錯誤を重ねながらノートテイク技能を少しずつ上達させていく様子、それとともにその心構えや意欲が向上していく様子、そして利用学生との連携によりノートテイクの内容を改善していく様子などを、読み取ることができよう。

紙面の都合上、全体の記述を短縮するために、1回の授業での記録内容の冒頭に「・」を付し、授業がかわるごとに「/」を挿入して文章を区切った。その際、当該学生のサポートを受けた利用学生のコメントが記入されていた場合は、その記述内容も〈 〉のなかに記した（ノートテイク利用記録と評価からの引用）。〈 〉のなかの冒頭に記されたKまたはMはその時の利用学生を示す。それらに対比させながら読むと、その時のノートテイク活動に対する両者の立場の違いがよく分かる。なお、それぞれの記述内容に関する筆者のこ

ントは【 】内に記し、該当箇所の最後に付加した。

●S1

<秋学期>

・ひまわりさんに、私のノートテイクでよかった点など挙げていただいたので、今後の自信や反省につなげていきたい。／・よく出てくる漢字はカタカナで書くか漢字で書くか統一をしっかりとしていきたい。／・自分がノートテイクを行っていない時でも、プリントに重要だと思うポイントを書き込んだり、プリントを見てもらうよう呼び掛けたりするなど、ノートテイク同士の連携をもっと図っていきたい。／・過去のプリントを誰が持って帰るか明確化されていなかったで、K君が持っていてもノートテイクが持っていないことがあった。今後はK君が持って帰ることにした。統一するとやりやすい。【今回Kと相談して決めたプリント保管法が具合よかったのであれば、他のメンバーにも伝え、統一したノートテイクのルールの1つとして周知徹底するとよいと思う。】／・話が飛び飛びになった時、そのままノートテイクをしていたら、後で書いた文をみたら何が言いたいのかよく分らなかった。接続詞の使い方のバリエーションを増やしていきたい。／・パソコン(PC)を使っのノートテイクは初めてだったが、レジュメとしての資料がちゃんと用意されていたのでノートテイクしやすかった。<K：風邪で休んだS9さんの代わりにS1さんが忙しいなか来てくださって、とても助かって感謝している。>【担当教員のほうでも、毎回プリント類を作成して配布するには時間も労力もかかるが、どの学生に対しても、できるだけ視覚的に授業情報を与えたほうがよいと感じている。】

●S2

<春学期>

・言われたことをそのまま記入していくのがノートテイクの仕事であるはずなのに、どこかで「まとめよう」「まとめよう」としていたのが反省点。／・いまだ所々書けないところがあるので、もっと技を磨いていかねばと改めて痛感した。／・少しでも多くの情報を伝えていくために、来週以降も頑張ろう。／・Mさんに自分の肘などが邪魔して瞬時に情報が伝わっていない時があるので注意したい。／・講義内容をだんだん正確にノートテイクできるようになってきていると思う。句読点をちゃんと打っていない時があるので、注意したい。／・ビデオ視聴の時はMさんの希望で要点のみ書けばよいということだった。しかし、双方で大切だと思うところが異なっているのはだめだと思い、できる限りノートテイクしようと思ったが、話すスピードがとても速くてついていけなかった。【ビデオ視聴の時のノートテイクをどうすべきかは困難な問題である。字幕付きビデオ教材が利用できるとよいが、そうでない場合は、外注して字幕を付けてもらうか、授業の前にビデオを見て音声内容を記録し、文章化した資料を用意すべきであろう。】／・Mさんが眠そうで、時々ウトウト寝たり起きたりしていた。利用学生が寝ている時

はノートテイクの必要はないと言われていたが、ノートテイクを続けた。【利用学生が寝てしまった時は、原則としてノートテイクを中断することになっている。しかし、その時の状況により柔軟に対応する必要があるだろう。今回はそのままノートテイクを続けたようであるが、一度ノートテイクを止めてMを起してから再開したほうがよかったと思う。】／・自分が興味深く思う講義は、そうではない講義よりも比較的よく拾えていると思う。【ノートテイクによってノートテイクする科目や領域に得手・不得手があるのは仕方がないことだ。自分が関心を持っている科目や既習の科目を担当するほうがより速く正しくノートテイクできると思う。適材適所で担当者が決められればよいが、ノートテイクが不足している現状では、それもなかなか難しい問題であろう。】／・テストの形式について先生がアンケートをとった（口頭で、多数決）。その時、ノートテイクのスピードが先生の話の速さと合わず、ノートテイクをしている間に多数決となってしまう、Mさんに少し悪かったかなと思った。このような場合どう対処したらよいか考えていきたい。【大教室での授業の場合は難しいかもしれないが、Mがアンケートに関するノートテイク記録を読んで了解し採決に参加する準備ができるまで、教員に待ってもらおうよう伝えられたらよかったと思う。】

<秋学期>

・ゆっくりしたナレーションで映像中心のビデオをノートテイクした。書きやすかったがK君にはあまり伝わっていないのかなと感じられるところがあった。【ビデオ視聴の際のノートテイクはとても難しいと思う。たとえ映像中心のビデオだったとしても、映像の進行に比べるとナレーションのノートテイクはかなり遅れるため、両者を関連づけながら理解するのは困難を伴うと思う。】

●S3

<秋学期>

・「書く」ということに集中してしまい、何でも書こうとして大事なところを聞き逃すことがあった。気をつけたい。／・相方がノートテイクしている時、まったく聞いておらず、次に自分の番となった時、どこをしているかわからないことがあった。相手がノートテイクしている時もきちんと聞いておかなければならないと分かった。／・プリントを使っただけの授業なので、プリントを読んでいる時はペンで後を追う。相方がノートテイクをしている間気を抜いてしまい、自分がする時にどこをやっているのかわからないことがある。もっと集中してやりたい。【講義をただ聞いているだけでなく、相方のノートテイク内容や利用学生の様子を見ながら、必要に応じていつでも手助けができるような態勢をとることが望ましい。】／・以前履修した科目にも関わらず、今回の授業内容が難しく理解できなかった。そのため、うまくノートテイクできなかった。分からなかったところを先生に聞こうと思った。Mさんが分かったか確認しながらノートテイクを進めようと思う。／・授業が速いと急いでしまい、字が汚くなっていた。後で自分で見

直すにも非常に見にくい字であった。Mさんは読めていたようだが、もう少し注意深く書きたい。途中でペンのインクが出なくなり、ボールペンで書いた。Mさんは見えにくかったであろう。これからきちんとしたい。／・話の内容を簡潔に書けるようになりたい。そうすればついていけず手が止まってしまうこともなくなるであろう。質疑応答では、質問の内容が聞き取れないこともあった。何とかしたい。【もし相方が聞き取れていたら補完してもらおうとよい。もし、2人とも聞き取れなかった場合、声が小さかったなどで他の学生も聞き取れていない可能性が高い。教員にその場でもう一度言ってもうよう頼んだり、後で尋ねたりするとよいと思う。聞き取れなかった内容がとくに重要事項である場合は、利用学生に確実に伝える必要があるだろう。】／・先生が話しながら似たような内容を板書する時、Mさんにどのような伝え方をすればよいか分からなかった。「次プリントを読みます」など（指導内容を）詳しく伝えてもらえるとノートテイクしやすかった。【教員側でも、口頭で説明をする際、なるべく指示詞は使わないで具体的な用語で話す配慮が必要だと痛感する。】

●S4

<春学期>

・相方がノートテイクしている間に、少し他の考え事をしてしまい、交代する時に今どこまで講義が進んでいて、プリントのどこを見るべきなのかわからなくなってしまったことがあった。自分がノートテイクしていない間でもしっかりと講義の内容を聞いていなければならぬと思った。【10分間ノートテイクをして交代した後も、手は休めても耳は働かせ続け、必要に応じて相方のノートテイクをサポートする必要があるだろう。交代後の10分間は、全く何もしないで休憩していればよいといった自由な時間ではない。】

<秋学期>

・自分が休憩している間でも今どこを進んでいるのかくらいは把握しておかなければならぬと思った。／・最近、講義が始まるぎりぎりの時間に着席することが多いので、ノートテイクという自覚をしっかり持って遅刻しないように気をつけなければならぬと思った。余裕をもってノートテイクができるようになってきているので、気がゆるんでしまっている。／・最近教科書を使うようになったが、Mさんはまだ買っていないので、先生が教科書を読んでいる時はどうしようかと思ってしまう。読むスピードが速いのでついていけず、ほとんど書けない。教科書の内容に先生が付け加えて話していることは書いているが、きっとMさんは話がつながらず理解できていないと思う。【教科書は、利用学生はもちろんのことノートテイクも持っていたほうがよい。予習・復習で役立てられるし、授業中にも利用できる。ノートテイクがその教科書をもっていない場合は、何らかの方法で貸与する必要があるだろう。】／・今回は講義のスピードについていくことができず、書いている途中で分からなくなってしまったことがあった。話がどんどん進んでいってもそれを覚えて頭に入れておきつつ、最後まで一つの文を書

ききることができるようにならないといけないと思った。

●S5

<春学期>

・Mさんの左側に座った時、自分の手で書いている文字が見えにくくなっていたので気をつけたい。／・プリントの内容を補足する時、要点を記入していたらスペースが狭くわかりにくくなった。工夫が必要だ。【教員側でも、プリント類はメモをとるためのスペースを十分空けて作成したほうがよいとは思う。しかし印刷枚数が多くなる関係で、図表や文章を1枚の用紙にきっちり詰めて印刷することも少なくない。プリントに合わせて工夫しながらメモを取るようにしてほしい。】／・授業のスピードが速いとどうしても急いでしまい、文字が小さくなってしまっている。もう少し大きな文字を書くよう心がけたい。／・今回は「字を大きく書く」ことを意識してノートテイクをした。前よりはよくなったと思う。【小さい字や流し書きの文字は読みにくくて利用学生泣かせである。今回のように意識的に大きな文字を書こうとすることによっても改善が見られたというが、そのような努力の積み重ねが、技能の上達を促していくのであろう。】／・授業中にMさんが寝てしまった。ノートテイクを続けたが、こういう場合どうすればいいのか。今日はMさんを起こして続けた。【Mは反省会でも述べていたが、授業中よく寝てしまうようである。今回はMを起してノートテイクを続けたというが、それでよかったと思う。】／・自分自身が知っている内容だとノートテイクがやりやすいことが分かった。また、テスト内容の話など、絶対に聞き漏らせない・間違えられない内容は、相方のノートテイクにも頼んで書いてもらった。【テスト関係については、とくに注意して正しく伝達すべき情報の1つである。2人のノートテイクが協力して漏らさず伝えようとしたことは、とても適切な判断だったと思う。】

<秋学期>

・今日は秋学期に入りはじめてのノートテイクで、ひまわりさんに補助についてもらいながら行った。話すスピードが速く追いつけないところもあったので、できるだけ正確に要約できるように技術を高めたい。<K：なかなかよかったが、箇条書き、記号などの工夫をもっとすれば速く書けるのではないかと思った。>／・授業が始まってすぐに教員が話すことが授業内容と関係のないことでもノートテイクを行わなければならないなど、多くの反省点が見つかった。<K：文字を省略するなど、前よりは工夫している。>／・ビデオの時字幕がない場合、ノートテイクは5分交代で行うことを忘れていた。<K：後半のビデオ鑑賞のノートテイクがやや物足りなかった。>／・今回は、ノートテイクの1人が初心者だったので3人で行った。他の人がノートテイクを行うのを見る時間が長くなってしまった。他人の技術を見てそれを習得するのも大切だが、やはり多くの実践によって技術の向上を図ったほうが効率がよくなると思う。次回から2人1組で行うようにしたい。<K：S5さんもS9さんにアドバイスするなどして指導

されていた。>/・初めて PC を使いながらの講義をノートテイクした。PC 画面を見ながら説明したり先生の言っていることをノートテイクしたりするのは非常に難しかった。用語や操作法を理解していないと、ノートテイクするのは大変でついていけないと感じた。<K：正直言って、今日のノートテイクはちょっと悪かったと思う。もっと向上心をもって頑張ってもらいたい。>/・PC の操作に遅れないよう、今まで以上に正確に速くノートテイクができるよう努力したい。<K：今日の講義は先生の説明が分かりやすかったせいかノートテイクがよかった。>/・教本のページ数を間違えて書いてしまった。<K：ノートテイクによる PC 操作の指示よりも、PC 画面を指差して指示してくれたほうが分かりやすく、工夫もよかったと思う。>/・最後の授業だった。はじめに比べると技術もついたのではないかと思う。これからも頑張っていこうと思う。<K：自習に近かったため、ノートテイクがすらすらと進み、とても分かりやすかったと思う。>【PC の操作に慣れていくにしたがって、わかりやすい教示の仕方やノートテイクができるようになっていった様子が文面から伝わってくる。はじめは厳しかったKの評価も、徐々によい方向に変わり、好意的になってきている。】

●S6

<秋学期>

・どうしてもタイムラグが発生してしまい、教室の空気が笑いにつままれてもそれを伝えることができず、もどかしい思いをした。/・ビデオ視聴。以前の講義で聴いたことを片っ端から書くことに疑問を感じていたので、Mさんに了解を得ずに「要約」に力を注いでみた。結果、考える時間が増え、Mさんに不快感を与えてしまった。Mさんから「めっちゃくちゃでいいから、とにかく書いてほしい」と指摘を受けたので、今後はそのスタイルを貫くことにする。注意をしているつもりだったが、業務態度が悪く、Mさんを不快にさせてしまった。今後このようなことがないように猛省している。<M：やはり手が止まっている。>【S6 は、聴いたままを自動的に文字化していくのが苦手なようである。本人は片っ端から書くことに疑問を感じていたと言っているが、どのように要約したらよいかあれこれ考え込んでいるうちに手が止まってしまうらしい。意味がわからなくてもよいから（それはこちらで考えるから）少しでも多く書いて情報を提供してほしい、というのが利用学生の願いであろう。】

●S7

<秋学期>

・先生がほとんどひっきりなしに喋るので、その中からどれが重要か選びまとめるのが難しかった。/・介護の時に、一緒に実践も行ったので、まわりがしゃべっていることとかほとんど伝えられなかった。「動く授業の時は口頭でよい」と言ってもらっていたが、その時何をすればよいかかわかっても、周りの状況までは伝えられないので、やり方を考えなければと思った。/・先生がたまに授業についてこられるか聞いてくださるが、

ペースを乱すのが悪いと思いあまり聞き返せない。でも、情報保障のためには聞いてみたほうがよいのかなと思った。【この教員もノートテイカーの責務を十分理解しているようだから、分からない時は遠慮しないで質問すべきだと思う。そうすれば、他の聞こえる学生たちにもノートテイク活動の存在をアピールすることができ、彼らの関心や理解を深めることになるだろう。】／・車いす体験だったので、ほぼ口頭で伝えた。ノートテイカーも一緒に体験した。先生の話すことをそのまま口頭で伝えるのは、やはり難しい。ノートも混ぜて行ったが、先生の動作、口頭、ノートを同時に見なければならなかった。Mさんにはわかりにくかったと思う。<M：動きながらノートテイク頑張ってくれた。>／・先生の話すスピードがとても速く、ついていくのが難しかった。ノートテイクでは伝えられないことが多く、まず自分が理解し、後で補足説明をする必要があった。一般に教員側に聴覚障害とノートテイクへの理解がないと難しいと思った。<M：体を動かして頑張ってノートテイクしてくれた。>【口話法とノートテイクを使い分けながら、試行錯誤で車椅子の利用の仕方（動作）を伝えようとする様子がうかがえる。ノートテイカーのために、もう少しゆっくり話してくれるよう、教員へ頼んでみたほうがよいと思う。】

●S8

<秋学期>

・Mさんから「同じことを話している時は省略してもいい」と言われたのでそのようにしているが、先生の話の内容が急に飛ぶことがあるので、もしかしたらわかりづらいノートテイクになってしまっているかもしれない。／・裁判所の配置の説明をする時、先生が「ここは被告人が座って……」というのをすばやくノートテイクするのが難しかった。／・先生が左の黒板に授業に合わせて教科書のページやプリントの番号を書いてくれたのでノートテイクしやすかったように思う。体調不良で10分ほど遅刻した迷惑をかけてしまった。／・先生が意見を書くプリントをノートテイカーにも配ってくださるので、意見交換しやすく活動しやすいように感じた。／・相方が病欠だったため、一人でノートテイクをした。10分ごとに休憩させてもらった。以前一人でノートテイクをした時は休憩をとらなかったが、そのほうがやりやすかったように感じた。私が休憩している間、Mさんは隣に座っていた友人にノートを見せてもらいながら授業を受けていた。自分が遅刻した時は、Mさんだけでなく相方にも連絡をするよう注意を受けたが、今回相方から欠席の連絡がなかった。連絡のとり方がどうなっているか疑問を持った。【予定していたノートテイカーが無断で遅刻したり急病などで欠席したりした時、相方が1人でノートテイクを担当せざるをえないが、利用学生や相方に多大な迷惑がかかることになる。今回は、たまたま利用学生の友人が隣にいてノートを見せてくれたから10分ごとの休憩がとれたようだが、そうでなければ1人で90分間ノートテイクを続けなければならないだろう。その場合は、疲労の蓄積や集中力の低下などにより、ノートテイクの

質も下がるかもしれないが、10分ごとに10分間のノートテイクの空白時間を生じさせるよりはよいであろう。】／・内容が難しくなってくると、私自身先生の言われていることが把握できず、ノートテイクも円滑に進めることができなかつた。一度授業を受けている人がノートテイクしたほうが利用学生も理解しやすいかもしれない。

●S9

<秋学期>

・前回が見学で、今回からノートテイクに挑戦した。休憩時はK君にプリントの説明をしたり、軽い雑談をしたりした。ノートテイクに大きなミスはなかつたが、無意識のうちに先生のおっしゃった内容を必要・不必要と分けてしまい、紙にも分けて書いているように感じた。ノートテイクのことを知り、ノートテイクの難しさをよく分かっている先生が、ノートテイクに合わせた口調で話してくれた。ノートテイクの技量を上げるのならば他の授業同様にしたほうがよいように感じた。<S9さんがはじめてノートテイクされるせいか、まだまだと感じるところが少なくなかつた。でも慣れていけば要約のコツをつかめるだろう。S5さんもS9さんにアドバイスを与えたりして指導されていた。>【初心者 of ノートテイクが技能を磨くためには、ノートテイクの介在を意識してゆっくりと話してもらいよりも、一般の教員と同等のスピードで話してもらいほうが練習になるとS9はいうが、それでは利用学生のためにならないだろう。たとえゆっくりと話された内容でも、初心者では十分ノートテイクできないからである。はじめはやさしい段階から徐々に難しい段階へと練習を積み重ねていくことによって、情報保障の質と量を高めていくことが肝要であろう。】／・スクリーンに映写されるスライドを見ながらの授業だったため、ノートテイクをする役とスライドの内容を知らせる役に分け、交互に行った。毎回ノートテイク用紙をひまわりさんからいただいているので気がかりである。ペンや紙はきまつた場所（たとえば障害者控室）に常備しておくのはどうか。<K：熱意は認めるが正直言ってまだまだと思う。もっと頑張ってもらいたい。>／・PCの授業で先生がPC画面で説明している（画面上の文を読んでいる）時など、先生の言葉のどれをノートテイクしたらよいか分からなくなる時がある。<K：まだまだ経験が足りないせいか悪い（不十分な）所が少しあった。先生の話の瞬時に頭の中で理解してまとめ、それを文字に上手く表すことができるよう努力して欲しい。>／・PCの授業では、「これをクリック」などノートテイクしても後から見直した時に理解しがたい言葉が多いので難しかった。<K：文のまとめが無意味に長いような気がする。もっと要点をうまくまとめて欲しい。>／・作業的な内容が多く、特に難しいノートテイクではなかつた。<K：字が雑っぽくてちゃんと並行にならなくて書いていないので、ちょっと読みづらかつた。>【S9はノートテイクの経験が浅いためか、話のポイントのとらえ方、文章のまとめ方、ノートの書き方などが未熟なようである。本人はそれらの問題点をあまり自覚していないようであるが、Kは厳しい目で見ている。利用学生

の声を謙虚に聞きながら、練習を続けていってほしいと思う。】

●S10

<秋学期>

・前回の内容をふまえたうえでの授業だった。前回は別のノートテイクが担当していたため、内容がわからず多少戸惑った。プリントを使った授業だったため、「右上のこれは……」となるとノートテイクがしにくかった。【Mの評価によると、箇条書き、記号など理解しやすい工夫がされていた】についての回答に、「どちらとも言えない」が多かった。やはり読むほうも分かりにくかったのであろう。】

その他に、ノートテイク活動には参加したが反省会のレポートを提出しなかった者の報告は次のとおりである。

●S12

<秋学期>

・知識のある内容はうまく要約できるが、知識のない部分は、自分でも初めて聞く内容なのでノートテイクは難しい。／・今回は全く知識がない内容で、ついていくのが精一杯だった。今日のノートテイクの内容ではあとから読んでも分からないのではと思った。【Mの評価はとてもよく、箇条書きが3であった以外はすべて1であった。ノートテイクの内容に不十分な点はあるものの、まじめな態度が評価されたのであろう。】／・話の内容が濃く、確かにすばらしいことをおっしゃっていたが、ノートテイクする時にもその凄さを表すことはできなかった。より内容を濃くノートテイクできるように頑張っていきたい。<M：いつも一生懸命やってくれている。>

●S13

<秋学期>

・Mさんと授業中おしゃべりをしすぎた。先生の言っていることが分かりにくくて、ノートテイクしにくかった。【ノートテイクを行っている時に利用学生と私語するのは不適切であったことを深く反省してほしい。ノートテイク講習会などを再度受講してノートテイク・サービスの趣旨を再確認し、その原点に立ち返ってノートテイクとしての自覚を高めてほしい。以後同様なことが起こらないよう利用学生ともども留意すべきである。】

●S14

<秋学期>

・先生が言った言葉を理解しまとめるのは難しい。頭を速く回転させなければならない。これからもうまくいくよう努力する<M：慣れてきたようで、書くスピードがだんだん速くなってきている。>

3) ノートテイク反省会での報告

次に、2回のノートテイク反省会に寄せられた学生ノートテイク者たちのレポート内容を

まとめて紹介する。それぞれのレポートを読むと、ノートテイク活動を通じて、さまざまな問題で悩み、改善策を考え、実行に移し、そしてその効果を検証した結果を仲間とともに次へつなげていこうとする、彼らの強い使命感や連帯感が感じられる。ノートテイク技能はまだまだ未熟で失敗も少なくないが、利用学生に迷惑をかけながらも少しは役に立っているということを励みに、またこれからも（利用学生のみならず自分のためにも）頑張っていこうという気概が溢れているように思う⁴⁾。

(i) 2005年度反省会

●S11

今年度は時間がなくてノートテイク活動はできなかったが、「ピーチフラッグス」のミーティングに参加した。毎週金曜日にミーティングをしていたが、ノートテイクした人のじかの声（今週は〇〇さんの授業でノートテイクをして、〇〇でしたなど）がもっと聞きたかった。また、ノートテイクの講習会を数回行ったものの、あまり人が集まらなかったのが残念であった。もっと宣伝しなければならない（新入生勧誘など）と感じた。ノートテイク活動後、報告書を提出しなかった学生ノートテイクがいるなどの話を聞いているが、その点も反省すべきだと思う。

●学生ノートテイク・サークル代表

ピーチフラッグスの2005年度活動内容は、春学期にMさんの2科目についてノートテイクを行い、ノートテイク講習会の実施に協力した。秋学期は、Mさん3科目とK君2科目について（一部「堺ひまわり」メンバーの指導を受けながら）ノートテイク活動を行った。反省点としては、予定していたノートテイクの急病などによる直前のノートテイク交代に対応するためにシフトの組み方を改善する、学生同士や「堺ひまわり」メンバーとの連携を深める、ノートテイク講習会にもっと参加し協力する、などが挙げられる。さらに、来年度の活動予定としては、メンバーの不足を解消するため新入生の勧誘を強化する、新旧メンバー間で活動の引き継ぎをきちんとする、ノートテイク講習会にもっと参加するなどして一人ひとりの技術の向上を図ること、などが挙げられる。

(ii) 2006年度反省会

●S1

Mさんの1科目のノートテイクを担当したが、先生の話し方がゆっくりで非常にノートテイクがしやすかった。先生自身もノートテイクの経験があるとのことで、ノートテイクしにくいところはないかとノートテイクへの気遣いがあり、先生がノートテイクの大変さを理解してくれることはかなりありがたいと思った。自分にとってノートテイク活動は大学生活の貴重な経験の1つであった。聴覚障害者のサポートをしているとい

4) ただし、各々の記述内容には、原文のままのものと筆者が部分的に書き直したものが含まれている。後者の場合は、趣旨を変更することなく不正確または冗長な部分を修正または要約して書き表した。また、「です・ます」調で書かれていたものは「だ・である」調に変えて文体を統一した。

うよりも勉強させてもらっていた部分が多かったように思う。

●S2

今年のノートテイクの個人としての反省点は、1月のノートテイクが自分の都合で入れなくなり、S9さんや代わりに入ってくださったノートテイクさんに迷惑をかけてしまったことである。しかし、全体としてはメーリングリストを作っていただいたおかげで、全体の連絡をみんなで共有することができ、これは大変よかったと思う。ノートテイクさんが4月からはますます不足してしまうということだが、ノートテイクは決して難しくないとことを地道に伝え、これからも呼び掛けや講習会などを続けて頑張ってもらいたい。2年間のノートテイクの中で、時には訳の分からないノートテイクをしたこともあると思うが、今は達成感でいっぱい。

●S3

3年の秋に初めてのノートテイクを経験した。ノートテイクを始めたのは、所属ゼミの活動方針としてやらなければならないという義務感があったからだが、当初は不安や緊張でいっぱいだった。ノートテイクについて何も分からないまま、講習会にも参加せず、いきなりノートテイクする形になってしまった。4年の春では、集中力が低下（先生の話がとても早く聞き取れないことが多かった）し、「堺ひまわり」メンバーを手本にしてノートテイクの仕方を学んだ。ノートテイク同士の連携が取れないことが続いた。4年の秋になり、授業内容の理解不足（授業内容が難しく知らない言葉が多く出てきて、何を書いているのか自分でも分からないことが多かった）やビデオの内容のまとめ方（もっと必要なところを重点的にまとめられたらよかったと思う）について反省している。

これまでのノートテイク活動から学んだ点は、①授業中はもっと集中して先生の話を見聞きしなければならないこと（黒板やプリントに書いてあること以外にも大切なことがあることが分かり、授業により集中するようになった）と、②3人が互いに協力し合うこと（ノートテイク2人と利用学生が協力し合うことでよりよいノートテイクができたし、ノートテイクを通して多くの仲間と出会い様々な話ができたと）である。

●S4

今年度の活動でよかった点は、①代表や連絡・調整担当を決めたこと、②月々のシフト表の作成、③講習会や反省会が決まったかたちで開かれるようになったことである。

問題点は、ノートテイクらと利用学生らとの間の交流が少ないことである。臨時で他の利用学生のノートテイクに入った時、お互い面識がなくて教室のどこにいるのかわからなかったことがあった。去年の春に行なったミーティングで、定期的なミーティングや、ノートテイク活動以外の活動も行って親睦を深めようといった案が出ていたが、メンバーそれぞれが忙しいこともあり、いつの間にか消えてしまっていた。講習会や反省会だけでなく、もう少し他の活動も行なって交流を深めてはどうか。ノートテイク

もそれぞれ個別に活動することがほとんどなので、全員がそろって活動することで親睦も深まり、グループとしての団結力も増すのではないかと思う。また、予定していたノートテイクが急にできなくなった時のスムーズな連絡・調整にもつながると思う。

ペンの支給を検討したらどうか。最初は講習会に出た時に「堺ひまわり」さんから支給されたペンを使用していたが、その後は自分で購入した別のものを使っていた。支給されたペンは、とても書きやすくインクの持ちもよく、一番使い勝手がよいと思う。一般の店ではあまり見かけないので、支給してほしいと思った。

●S5

個人としての反省点：①直前に欠席することが多く、Mさんやシフトの調整担当者に迷惑をかけてしまった。②授業の進行が早すぎるため焦ってしまい、講習会で学んだことが生かせなかった（やはりノートテイクは経験・練習なんだと再確認した）。③3回生への引継ぎに何もできなかった。

全体としての反省点：①学生ノートテイクのシフトの組み方として、ノートテイク自身に授業がある曜日に入るようにしたほうが負担は少なく、入りやすいと感じた。②定期的にミーティングを行い、利用学生とノートテイクが全体で話しをする機会があれば、ノートテイク技術の向上やテイク同士の交流につながっていくのではないかと感じた。③去年からの課題で、学生ノートテイクの不足があげられているが、ノートテイクを確保するためには、講習会やノートテイクの認知度を高めていかなければならない。それには地道にビラを配ったり、授業の時間をもらい宣伝したりしなければならないと思った。

●S6

①利用学生の当日キャンセルについて：ノートテイクの当日に、利用学生が連絡なく欠席したことが何度かあり、今後の対応をきちんと決めておくべきだと考えた。ノートテイクはきちんと教室で待機しているにもかかわらず、利用学生が急遽欠席したことによってノートテイクが中止となり、代金が支払われないことに疑問を感じた。一部でも代金を受け取ることができる形にしてはどうかと思う。

②ノートテイクの欠席について：ノートテイクの欠席については、メーリングリストがきちんと機能していたことと、積極的に代わってくれるノートテイクがいたことによって、シフトに穴があくことはなく、よかったと感じた。

③ノートテイク不足について：これまでも決して余裕があったわけではないが、来年度からはより一層学生ノートテイクが不足し始めることと思う。ポスターやビラは効果が薄く、口コミによる呼びかけが最も効果が高いと感じた。周囲の人間にもっと声をかけておくべきだった。来年度からは、人脈を活かした口コミ勧誘にも力を入れてみてはどうか。

●S7

Mさんの授業を担当したが、言葉が難しく少しやり辛さを感じたものの、何とか授業にはついていけていたと思う。慣れるにつれて書く量も増えてきたと思う。

個人としての反省点は、執務報告書の判子が1箇所たらず、提出が大分遅れてしまったことである。利用学生も、ノートテイクも判子は絶対忘れないように心がけていけないといけないと思った。

全体としての反省点：①ノートテイク講習会では、広報活動がきちんとできなかったため人が集らなかった。②全員で情報を共有できるようにとメーリングリストで連絡をとるようになったため、以前よりは連絡ミスなどが減ったと思う。これからも遅刻や欠席の連絡は各自徹底して行う必要がある。③ノートテイクのレベルアップを図るための勉強会が開けなかった。

●S8

よかった点は、メーリングリストが十分に活用できるようになったので、連絡がスムーズにできるようになったことである。2年目ということもあり、ノートテイク同士、利用学生とノートテイクの交流も深められ、ノートテイク活動がしやすかったように感じた。

疑問点や反省点は次のとおり：①先生が話されている言葉をありのままに書くべきか、内容が分かりやすいようにポイントを絞って書くべきか、いまだに迷うことがある。ノートテイクの仕方にとられるのではなく、利用学生の希望に合わせた方がいいのではないかと思う。②授業に遅刻した時も活動費を全て受け取っていいものなのかと疑問に思った。③略語を使うことが定着していない。そこで、その時の授業によって、使えるか否かは変わってくると思うが、参考として、何か一覧表を作ってもよいのではないか。④まだまだノートテイクの活動について、学生にも、先生方にも分かってもらえていないように感じる。学生に学ぶ権利があることや、大学側が活動費を出しているところから、もっと、ノートテイク制度を全面的に認めてもらえるように働きかけてもよいように思う。例えば、現段階では、ノートテイクの数自体が少ないので、先生方にも、学生たちへ呼びかけてもらうなどである。他大学では、福祉学科以外の学生も多数ノートテイクをしている。本大学でも、より多くの学生に知ってもらえる機会を増やしたい。⑤利用学生がノートテイクの仕方についてどう思っているのか、時々気になる。そこで、1か月ごとに、「ノートテイクの参考」などと題して、ノートテイクの仕方に関する改善点などをメーリングリストなどを使って言ってみてはどうか。個人的には、毎回アドバイスしてもらえると助かると思う。

●S9

個人としての反省点：①一度大幅に遅刻した、②技術向上の意思が薄かった、③交代の時間を忘れていた、④一度利用学生にテストについての情報がうまく伝わっていなか

った。

学生コーディネータとしての反省点：①シフト変更が全員（利用学生・2人のノートテイク）に伝わっていなかったり，途中での変更や急な変更への対処が曖昧だったりした。②シフト提出が遅れた時があった。③途中からミーティングをするのを怠ってしまった。ある意味で全員が集まらなくてもメーリングリストなどで情報共有できているが，やはりメンバーが顔を合わせる機会を作るべきだった。

全体としての反省点：①技術向上に関する努力があまり無かったし，向上させる機会がなかった。そこで，来年度は，定期的なミーティングを兼ねて練習会を開きたい。②判子の押し忘れが多かった。授業後ではなく授業前に押すようにするとよいのではないか。③1回生，2回生への勧誘ができていなかった。

まとめとして，今後は利用学生が1回生中心となるので，ノートテイクも1回生を集めることをめざして声かけをし，できれば多種多様な学年のノートテイクを募集したいと思う。いつでも誰もが必要な時にノートテイクを利用できるように，技術向上を怠らず，今後もピーチフラッグスを発展させていこう。

●S10

個人としての反省点は遅刻が多かったことである。また，講習会について，来年度のノートテイクがかなり減少するので，講習会をしてノートテイク増加を狙う必要がある。しかし，なかなか広報が広まってなくて，講習会の参加者が少な過ぎる。今回は利用学生が受けている授業で広報をさせてもらったが，もしこれで人数が集まらなければ，利用学生だけでなく，ノートテイクが普段受けている授業でも広報をしなければならぬと思う。

●S11

この学生のレポートは文章でなく箇条書きされたものだが，要点をとらえ簡潔にまとめられているのでそのまま紹介する。

[良かった点]

① 個人として

- ・たくさんノートテイクに入って，少し慣れてきたこと。
- ・いろいろな授業を聞き，勉強にもなった。
- ・Mさんと手話で話すことができ，よいコミュニケーションがとれた。

② 全体として

- ・時々ミーティングをして，ノートテイクへの姿勢が明確になった。
- ・講習会では，レベルアップを図ることができた。
- ・毎回のシフト表は，大変有難かった。
- ・メーリングリストで，情報が流しやすくなった。

[反省点…改善に向けて]

① 個人として

- ・少し慣れすぎて、つまらない時は適当にノートテイクしてしまった。
→ 初心忘れるべからず。何のためのノートテイクか、よく考える。
- ・先生の話がうまくまとめられない。
→ ポイントをつかむ努力をする。

② 全体として

- ・シフトに誤りがあった
→ 気づいた時点で、全員で情報を共有する（メーリングリストなど）
- ・一部の人に任せきり
→ ミーティングや、ピーチフラッグスだけでもよいから勉強会とかを開き、全員で何をすべきか考える。
- ・いまいち全体がつかめない
→ 私個人にも問題があるが、Mさん以外の利用学生の状況がわからない。話し合える場（近況報告とかできる、気楽な時間）を作ったらよいのではと思う。

3. 「堺ひまわり」メンバーによるノートテイク活動状況について

1) 「2006年度ノートテイクに関するアンケート調査」

利用学生Kのノートテイクを担当した3名の「堺ひまわり」メンバー（H1, H2, H3）を対象に、彼らが担当した5科目（教育学概論，専門演習，視聴覚教育，教育実習Ⅰ，教職演習）についてアンケート調査が行なわれた。質問内容は図表3で示すとおりである。回答はすべて自由記述で求められた。次に、回答が記載されていた項目について科目ごとにまとめて紹介する⁵⁾。この5科目については、本プロジェクトの第1回研究報告において、3名の担当者から詳細な報告がなされている。前回と今回の報告を対比させながら読むと、Kへのノートテイク・サービスをより有効なものに改善していくため、「堺ひまわり」メンバーと教員がどのように協働していったかが分かるであろう。それぞれの回答は、今後の本学におけるノートテイク・サービス活動に対し示唆に富んだ提言となっている。

●専門演習の場合

① ノートテイクの様子や特徴

- ・ゼミの雰囲気を伝えること<H1>
- ・授業内容は私たちには縁遠いものだったが、先生の洗練された授業進行によって、ゼミ生に独特のコミュニケーションが生じ、利用学生もノートテイクも楽しくまた積極的に取り組むことができた。<H2>

5) ただし、各々の記述内容には、原文のままのもの、趣旨を変更することなく要約したものが含まれている。また、「です・ます」調で書かれていたものは「だ・である」調に変えて文体を統一した。

- ・ノートテイクに対して、先生の配慮があった（授業を中断して確認する、ゆっくり説明するなど）。授業に沿った詳しいレジュメが準備されていた。ノートテイク者に対して、問題点の確認や教室の雰囲気の説明をしてくれた（授業後ノートテイク者に対して何か問題はないかと尋ねたり、利用学生にノートを見せている学生がゼミの中心的存在だと説明してくれたりした）。〈H3〉
- ② やりやすいと感じた点
- ・ゼミ生がノートテイクに対して協力的だった。聞き取りやすい席へ移動させてくれた。教員が学生の名前を書いた札を机の上に置いたり話をまとめたりと配慮してくれた。〈H1〉
 - ・周りの学生が利用学生およびノートテイク者をさりげなくサポートしてくれた（法規書などの該当箇所を指差すなど）。〈H2〉
 - ・ゼミ生らが利用学生に分かってもらおう、説明しようと配慮していた。〈H3〉
- ③, ④ やりにくいと感じたり困ったりした点
- ・活発な意見交換の際、すべての発言を拾う難しさを感じた。氏名を名乗ってから発言してくれたらノートテイクがしやすかったと思う。後半は、発言者を記号で示すようにした。〈H1〉
 - ・学生たちの意見交換のすべてを伝えることが難しく、特にこれはと思うものに的を絞って伝えるよう心がけた。〈H2〉
 - ・ゼミでの議論のどの部分を拾ってノートテイクをすればよいか迷い、利用学生に迷惑をかけた（私語、とっさの冗談、数か所で同時に起こる話し合いの声が重なる時、会話のスピードが速い、など）。最初、発言者の名前が分からず困った。授業の内容が分からず、固有名詞、専門用語などの誤記や書ききれないための欠落などが多く、利用学生に訂正してもらうなど迷惑をかけた。〈H3〉
- ⑤ ノートテイクで工夫した点
- ・着席図を書いて、発言者を区別した。なるべく授業の10分前に入室し、利用学生との交流を図った。互いに親しくなるため、ノートテイク者はきまった人が担当するよう努めた。〈H3〉
- ⑥ その他
- ・利用学生が変わっていくのがよく分かった。最初は緊張からか顔もこわばっていた。ノートテイクした紙を読むのも慣れていない様子だった。他のゼミ生とも少し距離があったようだ。授業を重ねるうちにしだいに表情が和らいでいき、ノートテイクした用紙もスムーズに読めるようになった。推測だが、授業の理解度も深まっていくように感じられた。他のゼミ生とも筆談で話し合うようになった。ノートテイク者とも冗談を言えるくらいの関係が持てた。変化は周囲に及び、彼らも障害学生への思いやりを持つようになった。これらは先生のリーダーシップに負うところが大きい。聴覚だ

けに限らず、障害者が授業に参加することによって授業の速度は遅くなるかもしれないが、これは先生の工夫で克服できよう。学生は授業内容以外にも障害者との関わり方を学んだ。これは社会に出ても役立つ大切なことと思う。今後とも、先生、学校側が障害者の受け入れについて、積極的になっていただくよう望む。〈H3〉

●教育学概論

① ノートテイクの様子や特徴

・講義内容は最初から最後まで筋がつかみやすく、ノートテイクしやすかった。一語一語はっきりと話され、語尾まできちんと同じ大きさの声なので、とても聞きやすくまとめやすかった。〈H1〉

② やりやすいと感じた点

・講義内容の筋が通っているため、内容がつかみやすく書きやすかった。先生がいつもノートテイクに心配りをしてくださり、とてもうれしく感じた。〈H1〉

⑤ ノートテイクで工夫した点

・前のほうに座って聞きやすくすること。〈H1〉

●教育実習 I

① ノートテイクの様子や特徴

・利用学生の模擬授業の実施では、手話対応をしたり PC の音声対応をとったりと、新しい試みでとても勉強になった。常にどうすれば聴覚障害学生にとってベストなのかと考えている姿勢に刺激を感じた。〈H1〉

・模擬授業は中学生・高校生が対象となるので、いわゆる利用学生が受ける「大学授業」ではないことから、その内容をどの程度伝えるか少し戸惑った。実際はノートテイクしたが、中学生対象の地理など、あっ、これは本人には重要事項ではないのだと、つい錯覚してしまった。しかし、このことで、ノートテイクではある程度緩急をつける必要のあることを学んだ。〈H2〉

② やりやすいと感じた点

・事前に、この授業ではノートテイクが入ることを学生たちに伝えてくれたので、とても居心地がよかった。ノートテイクにもレジュメが用意されていたので助かった。〈H1〉

・ある程度手順がきまっているので、次への予測がつきやすい。〈H2〉

③ やりにくいと感じた点

・模擬授業では、教育実習生の声が小さくて聞き取りにくい時があった。下を向かずに前を見て話してくれると助かる。板書しながらの説明で、背中を向けて話されると利用学生に説明がしにくかった。「これがこうなって……」という言い方だとそのままノートテイクしても理解してもらえないので、具体的に言葉や文字を使って説明してほしい。今回はノートテイクのほうで言葉に変換した。〈H1〉

・教育実習生の声が小さい時。<H2>

⑤ ノートテイクで工夫した点

・模擬授業中、生徒として指名された時、ノートテイク2人で協力して1人が質問事項を書き、もう一方が状況説明を行った。<H2>

●教職演習

① ノートテイクの様子や特徴

・各グループに分かれての研究発表では、グループの女子学生とは筆談でしたり、ノートテイクを利用したりして、その場の状況により対応した。<H1>

・グループ学習をするのが初めてだったので、授業のノートテイクとともに、学生同士のコミュニケーションをいかにスムーズにまた楽しいものにするか心がけたつもり。学生同士で自然な形で進んでいき、若い人の心意気を感じた。<H2>

② やりやすいと感じた点

・利用学生にも質問を投げかけたりして仲間に呼び入れていることに感動した。<H1>

③, ④ やりにくいと感じたり困ったりした点

・各グループの学生の発表時のスピードが速かったり声が小さかったりで、少し戸惑った。聞き取れない時はその箇所を丸で囲み、聞き取れなかったことを知らせた。<H1>

・資料作りで利用学生がPCルームにいた時も同行したが、とくにノートテイクの必要はなかった。<H2>

⑤ ノートテイクで工夫した点

・いつ質問されても困らないように、特にポイントは波線を引いて印をつけた。質問が来た時は、リアルタイムに補助者が質問内容を書いたりした。<H1>

●視聴覚教育

① ノートテイクの様子や特徴

・教員が利用学生のために常に努力をしていることを肌で感じた。ノートテイク専用のレジュメが準備されていたため助かった。<H1>

② やりやすいと感じた点

・私語もなく、一言一言ノートテイクを意識しながら講義を進めてくれたため、ノートテイクしやすかった。<H1>

③, ④ やりにくいと感じたり困ったりした点

・レジュメが白黒のアウトライン形式で、かつスライド画面と異なるため、最初、利用学生が戸惑っていた。スライド画面を指差したが、分からない様子だった。<H1>

⑤ ノートテイクで工夫した点

・英語のビデオの時、「英語でしゃべっています。アメリカのTV番組です。言葉は早すぎて書けません」と断りを入れた。〈H1〉

2) ノートテイク反省会での報告

最後に、2回のノートテイク反省会に寄せられた「堺ひまわり」メンバーのレポート内容をまとめて紹介する⁶⁾。なお、それぞれの記述内容に関する筆者のコメントは【 】内に記し、該当箇所の最後に付加した。

・利用学生から、ノートテイクを利用するようになってから授業への取り組みがよくなったや、授業がより解かるようになったなど、ノートテイクの効果を知らされて大変嬉しく思った。一方で、ノートテイクの不慣れ（利用学生、ノートテイクとも）からくるストレス、いつも横に人がいる煩わしさなど、利用学生が受ける負の部分もあると思われる。これら負の部分への対応が今後の課題の一つと考えられる。【確かに、大学の教室で常に社会人ノートテイクに挟まれて授業を受けなければならないということは強いストレスになりうる。実際、Mの場合、ノートテイクの質は犠牲にしても、気楽に頼める学生ノートテイクにサポートしてもらうほうを選ぶ傾向があった。しかし、学生ノートテイクがなかなか集まらないうえに一人前になるまで時間がかかるといった現状では、利用学生は社会人によるノートテイクにも順応していく必要がある。教室の最前列で社会人ノートテイクとともに授業を受ける利用学生の姿が日常的に見られるようになり、ノートテイク活動に対する周囲の理解と協力が深まれば、彼らのストレスも軽減されていくと思う。そうとはいえ、大学側は、引き続き学生ノートテイクの募集と訓練の強化を推進していかねばならないであろう。】

・ノートテイクの講習会に参加した学生の取り組む姿勢に好感を覚えた。人の役に立ちたいという気持ちが伝わってきた。もっと感心したのは、ボランティアを義務感としてとらえるのではなく当然のこととして、むしろ楽しみながら学んでいたことである。そのような姿勢なのだからだろうか、その後の上達が早く、また、分かりやすく伝えるための工夫も目をみはるものがあった。もっと学生ノートテイクの人数が増えてますます活発な活動になるよう願うしだいである。【当時の学生ノートテイクには社会福祉学科の学生が多く含まれていた。また、手話部の学生も参加しており、どうすれば利用学生に分かりやすいノートテイクが提供できるか、どのようにすれば自分のノートテイク技術を向上させることができるか、常々真剣に考えながら活動していた者が少なくなかった。】

・ノートテイクに行くたびに利用学生が私たちに慣れ親しんでくれるのがわかった。

6) ただし、各々の記述内容には、原文のままのもの、趣旨を変更することなく要約したもの、含まれている。また、「です・ます」調で書かれていたものは「だ・である」調に変えて文体を統一した。

先生方も最初は「何かな」という感じで戸惑っていたようだが、いつしか利用学生やノートテイク者に配慮して下さるようになり、その変化に、「ああ、やっていてよかった」という充実感を覚えた。利用学生は、学生ノートテイク者と私たちおばさんノートテイク者との違いをどう感じているのか、どのようなノートテイクを望んでいるかをこの反省会で聞いて、より役立つノートテイクを心掛けたい。

・授業のノートテイクということもあり、情報の同時保障はもちろんのこと（話し手のスピードが増せば増すほど、書くほうがどうしても遅れてしまい申し訳なさを感じている）、あとから読み返してもわかるようにと頑張って書いたが、急いで書くことで、字が流れたり、くせ字が出たり、書き漏れも多々あったことと思ひ、反省している。書き漏れに関しては、レジュメや教科書とあわせて見てもらえれば、ある程度は授業の内容を把握していただけたらと思う。【手書きによる読みにくさについては、PCノートテイクが利用できるようになれば解消されるだろう。PCノートテイク者の養成は今後の課題である。また、利用学生においてもノートテイク活用法に習熟していく必要がある。ノートテイク記録はあくまで自分のノートを作成するための資料の1つであって、授業後には必ず自分のノートを点検し、不足や間違いのある箇所は友だちや教員に尋ねて補完しておくことが肝要であろう。】

IV 結 語

本稿は、本学のノートテイク利用学生、学生ノートテイク者、および社会人ノートテイク者の「堺ひまわり」メンバーらの視点に立ち、2004年度から2006年度にかけての本学におけるノートテイクの利用・活動状況およびその成果・課題について報告を行ったものである。とくにノートテイクを利用した2名の本学学生（KとM）および彼らをサポートしたノートテイク者たち（本学学生ノートテイク者と「堺ひまわり」メンバー）を対象にして、2005年度と2006年度に行ったアンケート調査の結果（自由記述による回答）や2004～2006年度に提出されたレポートの内容などに基づき、彼らの率直な声をなるべく多くそのままの形で紹介して記録に残すことを心がけた。それぞれの利用学生や学生ノートテイク者たちが1年半から2年の間にどのようにして活動を展開していったか、本稿を読めば各自の成長・変化の過程をたどることができよう。記述内容の重複や冗長さが散見されるものとなったが、今後の大学ノートテイク・サービスの実施・運営のための一助となれば幸いである。

追悼の辞

本プロジェクトの代表としてご尽力いただいた生瀬克己先生がご逝去されてから早1年が過ぎようとしています。先生には、当初、本プロジェクトの最初の研究報告として「本学における障害学生の受け入れをめぐる——1970・1980年代を中心として——」をお書きいただく予定でした。それもとうとう幻の論文となってしまいました。

昨年の1月半ば、先生のお宅へお電話を差し上げ、研究報告書をどうするかご相談しました。先生はいつもの通りのはっきりしたお声で、しかも淡々と、受話器を握るのが精一杯でペンは持てないとおっしゃいました。「口述していただければ私がパソコンに入力します」と申し上げたところ、先生は「もうその気力がありません。ごめんなさい」と。その時はじめて、ご病状が極めて重篤であることを思い知らされました。先生には最期までご心配をおかけしてしまい、本当に申し訳なく思っています。先生のご冥福を心よりお祈りいたします。

2009年1月

参考文献

- 斎藤佐和（監修）白澤麻弓・徳田克己（2002）『聴覚障害学生サポートガイドブック』
日本医療企画
- 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク 情報保障評価事業グループ（編著）（2007）『大学ノート
テイク支援ハンドブック』人間社
- 日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（編）（2008）『トピック別聴覚障害学生支援ガイド——
PEPNet-Japan TipSheet 集』日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク事務局
- 吉川あゆみ・太田晴康・広田典子・白澤麻弓（2001）『大学ノートテイク入門』人間社

参照したインターネット・ホームページ

“The Postsecondary Education Network-International (PEN-International)”

<http://www.pen.ntid.rit.edu/>（2009/1/16参照）

「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク (PEPNet-Japan)」

<http://www.tsukuba-tech.ac.jp/ce/xoops/>（2009/1/16参照）

Formation of Systems of Communication Access Services for Students with Hearing Disabilities at Momoyama Gakuin University (Ⅱ): Results of Surveys about Note-taking Services

Keiko SHIMIZU

This paper is the second report on the activities of the collaborative research project (04-kyou-169) at the Research Institute of Momoyama Gakuin University. It was presented for the purpose of notifying the results of surveys about note-taking services for two students with hearing disabilities at this university.

Several surveys on three kinds of reports were conducted in academic years 2004 to 2006 : (1) brief utilization reports submitted by two student users of note-taking service (K, M) who were supported by two note-takers in each class ; (2) brief reports on each note-taking activity submitted by 14 student volunteers who supported K and/or M, and relatively long reports presented by them as a general overview of note-taking activity for one year in the year-end evaluation meeting; and (3) relatively long reports of note-taking services to K and/or M submitted by adult volunteers who were members of the note-takers' circle "Sakai Himawari".

These surveys demonstrate that 14 student note-takers were able to gradually improve their own skills of note-taking: at the beginning, all the student volunteers were untrained note-takers, yet they were able to become more skillful in note-taking in a practical manner, acknowledging the presence of great differences in degree of proficiency between individuals. On the other hand, it seems that adult volunteers already had plenty of experience in note-taking and thus could provide necessary advice or aid to both student users and note-takers.

The author suggests that these findings could be an informative guide for improving note-taking services at this university in the future.